

# 移植医 万波誠の真実

## ——閉ざされた修復腎移植への道

麻野 涼 著

定価 1,800 円+税/四六判 並製 / 3 月下旬発売予定 / ISBN978-4-86722-128-0 C0036



### 万波誠医師追悼 ——

「悪魔の医師」とまでバッシングされた移植医の  
真実の姿を追ったノンフィクション・ノベル。

無脳症児からの腎臓移植を実行した大島伸一と「修復腎（病腎）移植」  
に行き着いた万波誠。激しく対立した2人の開拓者の足跡をたどり、  
日本の腎臓移植黎明期から現在までを描く。患者に寄り添い、病気を  
治そうと思うがゆえの腎臓移植はなぜ阻まれるのか？

2兆円市場といわれる透析医療、その裏で蠢く渡航移植の闇に迫る。

#### 〔目次〕

プロローグ 臓器売買	11 無脳症児移植
1 「人体実験」	12 臓器危機
2 レシピエント	13 禁忌
3 若き先駆者	14 修復腎移植
4 辺境の医療	15 臨床研究
5 始動	16 待機患者
6 動物実験	17 移植ツーリズム
7 レシピエントの死	18 W移植
8 一步	エピローグ
9 恐怖	あとがき
10 拒絶反応	解説（近藤俊文）

#### 【著者紹介】麻野 涼（あさの・りょう）

1975年、早稲田大学卒業後、ブラジルへ移住。日系邦字紙パウリスタ新聞（現ブラジル日報）勤務を経て、1978年帰国。以後、フリーライター。高橋幸春名でノンフィクションを執筆。1991年に『蒼氓の大地』（講談社）で第13回講談社ノンフィクション賞受賞。

『悔恨の島ミンダナオ』（講談社）、『絶望の移民史』（毎日新聞社）、『日系人の歴史を知ろう』（岩波書店）、『日本の腎移植はどう変わったか』（えにし書房）、『[ハーフ]物語』（えにし書房）など。2000年に初の小説『天皇の船』（文藝春秋）を麻野涼のペンネームで上梓。以後、麻野涼名で『国籍不明（上・下）』（講談社）、『闇の墓碑銘』（徳間書店）、『満州「被差別部落」移民』（彩流社）などを上梓。

2013年2月刊の『死の臓器』（文芸社文庫）は高橋幸春名の『透析患者を救う！ 修復腎移植』（彩流社）と同テーマの小説版。2018年11月には臓器売買をテーマにした小説『叫ぶ臓器』（文芸社文庫）を上梓。

#### 直取引代行 トランスビュー

えにし書房の商品は、トランスビューの取扱で納品します。直取引の条件はトランスビューの商品とすべて同じ（返品随時可）です。取次ルートの場合は八木書店経由（返品可）です。トランスビューとお取引がない書店様は小社にご連絡ください。ご注文は1冊からお気軽に！

貴店名

ご担当

『移植医 万波誠の真実』

冊